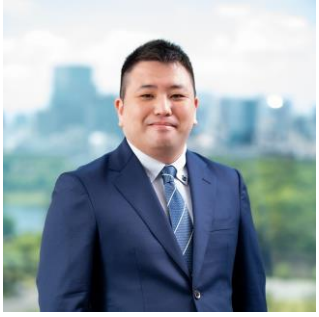
会計監査・アドバイザリー

会計監査

ITの知見とUSCPAを活かし、日本企業の会計監査を行う

監査・保証事業本部
東日本第三事業部
東京事務所　マネジャー

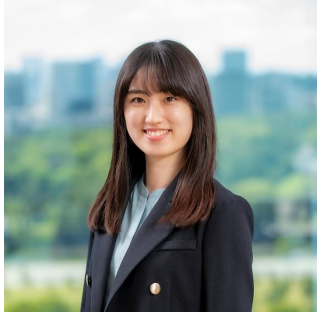
IT企業からの転職／USCPAでの会計監査



グループ外の組織を経験し、有限責任監査法人トーマツの魅力に気付く

監査・保証事業本部
東日本第二事業部
東京事務所　マネジャー

コンサルティングファームからの転職／再入社／会計監査



クロスアサイン制度で幅広い監査経験を積む

監査・保証事業本部
東日本第二事業部
東京事務所　マネジャー

コンサルティングファームからの転職／再入社／会計監査

アドバイザリー

公務員の知見を活かし、地域の社会課題解決を支援する

監査・保証事業本部
東日本第四事業部
仙台事務所　シニアスタッフ

官公庁（公務員）からの転職／パブリックセクター向けアドバイザリー

規制当局の動向を把握し、金融業界の課題解決を支援する

監査・保証事業本部
金融事業部　東京事務所　スタッフ

官公庁（公務員）からの転職／金融機関向けアドバイザリー

会計監査業務とITの高度な融合を推進する

監査・保証事業本部
金融事業部　東京事務所　ジュニアスタッフ

IT企業からの転職／会計監査業務のITによる効率化・高度化

農業分野の課題解決を支援し、農政と農業現場の結節点となることを追及する

監査・保証事業本部　パブリックセクター・ヘルスケア事業部　東京事務所
スタッフ

官公庁（公務員）からの転職／パブリックセクター向けアドバイザリー

海外オフィスメンバーと協業して、グループガバナンス構築の支援を行う

監査・保証事業本部　監査アドバイザリー事業部　内部統制・経営体制アドバイザリー　東京事務所　シニアスタッフ

メーカーからの転職／グループガバナンス構築アドバイザリー

会計領域の経験とUSCPAを基に、アドバイザリーと会計監査を兼務する

監査・保証事業本部　監査アドバイザリー事業部　会計・財務報告アドバイザリー　東京事務所　スタッフ

メーカーからの転職／経営業務支援アドバイザリー／USCPAでの会計監査

九州発の地域振興と国際協力を重視し、研究開発と人材育成を行う

監査・保証事業本部　西日本事業部　西日本アドバイザリー　福岡事務所　マネジャー

シンクタンクからの転職／スタートアップ企業支援

DX支援や人材育成を行い、地方創生を追求する

監査・保証事業本部　西日本事業部　西日本アドバイザリー　福岡事務所　マネジャー

外食関連企業からの転職／スタートアップ企業支援

地域イノベーションエコシステム構築と人事支援を行い、地元九州に貢献し、企業の挑戦をサポートする

監査・保証事業本部　西日本事業部　西日本アドバイザリー　福岡事務所　シニアスタッフ

メーカーからの転職／スタートアップ企業支援

アクセラレーションプログラムを推進し、スタートアップと中小企業の支援を行う

監査・保証事業本部　西日本事業部　西日本アドバイザリー　福岡事務所　シニアスタッフ

スタートアップ企業からの転職／スタートアップ企業支援

広告代理店の経験を活かし、九州と四国の企業成長を促進する

監査・保証事業本部　西日本事業部　西日本アドバイザリー　福岡事務所　スタッフ

広告代理店からの転職／スタートアップ企業支援

官公庁や行政案件のサポートを通じて、チームの負担を軽減する

監査・保証事業本部　西日本事業部　西日本アドバイザリー　福岡事務所　ジュニアスタッフ

金融機関からの転職／スタートアップ企業支援

九州・アジアイノベーションエコシステムの構築と発展に向けて

監査・保証事業本部
西日本事業部　西日本アドバイザリー　福岡事務所　パートナー

監査・保証事業本部
西日本事業部　西日本アドバイザリー　福岡事務所　シニアマネジャー

トーマツ監査イノベーション＆デリバリーセンター(AIDC)

ワークライフバランスも、スキルアップも。家庭と仕事の単なる両立ではなく、両方充実させることができました！

有限責任監査法人トーマツ（Audit Innovation & Delivery Center）
オペレーター

専門性をつけスキルアップ／ワークライフバランス／未経験業界へチャレンジ

採用ページへ戻る

ITの知見とUSCPAを活かし、日本企業の会計監査を行う

有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　東日本第三事業部　東京事務所
マネジャー
IT企業からの転職／USCPAでの会計監査
2019年2月入社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.現在の仕事内容はどういったものですか。

A. 上場企業の監査や会社法監査など、担当クライアントのローテーションはありますが、ミドル規模の会社を中心に3～5社程度を担当し、会計監査を行っています。チームのメンバーは、担当しているクライアントの規模にもよりますが、10人以上の時もあれば、2～3人の時もあり、監査手続をして調書を書くこともあれば、主任としてチームをまとめる立場の時もあります。
海外に子会社や拠点がある等、グローバルに展開している会社も多いので、英語を使った業務も多く、海外のデロイトのメンバーと英語でコミュニケーションを取ることもあります。最初は英語の監査用語がぱっと出てこずにうまくいかないこともありましたが、海外の事例を教えてもらったりと、貴重な経験ができていると思います。

Q.前職の仕事内容と、その内容が現在の仕事にどのように活かされているかを教えてください。

A.　前職では、システムエンジニアとして、システムの設計、開発、運用、保守等、プロジェクトによって、毎回異なる色々なフェーズを経験しました。クライアントとのコミュニケーションから、ITシステムの設定やプログラミングまで、幅広く経験したこともあり、コミュニケーションスキルや、問題解決のための分析的思考などが身についたと思います。その後、転職して有限責任監査法人トーマツでシステム監査の仕事を経験しました。
システムエンジニアの仕事も、会計監査の仕事も、クライアントやチームメンバーと効果的にコミュニケーションを取ることが求められ、どちらも専門性が高いことから、専門的な情報をわかりやすく伝える必要がある場面では、前職での経験が活きていると感じます。また、クライアントから会計処理などの相談を受けた時には、情報を整理して、助言や指導をするために、分析的な思考や、問題を解決するための行動力が役に立っていると感じます。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社したきっかけ、経緯を教えてください。

A.　ITシステム関連の仕事は好きでしたが、どうしてもプログラミングにセンスがなく、同じシステム関連でも、もう少しプログラミングから離れたところにキャリアの軸を置こうと考えた時に、システム監査の仕事を知り、有限責任監査法人トーマツに応募したのがきっかけです。
最初はシステム監査とは？と何をする仕事なのかもよく分かっていませんでしたが、面接でお会いした方々が、チームワークを大切にしつつも個性があり、仕事と家庭や趣味を両立されていて、こういう方と一緒に働きたい、こういう環境で、新しい仕事にチャレンジしてみたいと感じたことが入社を決めた理由です。
USCPA（米国公認会計士）の取得を機に、会計監査にキャリアの軸を移してきていますが、会計監査の部門も、魅力のある人が多く、成長できる環境だと感じています。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社してよかったこと、現在の所属組織で働くことの魅力を教えてください。

A. ネットワークの広さやリソースの豊富さが、有限責任監査法人トーマツに入社してよかったなと思う理由の一つです。海外のデロイトメンバーとのグローバルなつながりもありますし、日本においては同じ監査部門内の別のユニットの方といったご近所さん的なつながりもあり、新しい知識を学べる機会が多くあるので、あれもこれも色々 挑戦したいなと思っていた私には、とても合っていると感じています。オフィシャルな研修以外にも、Zoomで開催される気軽な勉強会もあるので、気になるトピックがあれば参加できるのも嬉しいです。
また、監査の仕事は、どうしてもルールや基準が決まった中で行う仕事になるため、働きやすさは一緒に働く人に大きく影響を受けるのかなと思います。チームごとに雰囲気は少しずつ違ってくるかとは思いますが、新たな挑戦にチャレンジする人もいれば、守りを固める人もいて、多様で魅力的な人たちが集まっていることも、入社して良かったと思うことのひとつです。

Q.今後のキャリアプラン、ビジョンをお聞かせください。

A. 今は具体的な今後目指したいキャリアはないのですが、システムエンジニアからシステム監査、会計監査とその時に興味のあるものに向かって進んできたので、今後も、その時興味をもってやりたいと思ったことに挑戦していければ良いなと思っています。
有限責任監査法人トーマツ、デロイト トーマツ グループには、たくさんの強みのある分野やグローバルなネットワークがあると思いますし、リモートワークの環境や人事制度なども整っていると思います。いろいろある制度を上手に使いながら、新しいことに挑戦して成長を実感したり、チームのメンバーの成長を応援したり、ワークライフバランスも大切にしながら、長く、楽しく仕事ができると良いなと思っています。

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

グループ外の組織を経験し、有限責任監査法人トーマツの魅力に気付く

有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　東日本第二事業部　東京事務所
マネジャー
コンサルティングファームからの転職／再入社／会計監査
2014年7月入社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.現在の仕事内容はどういったものですか。

A. 有限責任監査法人トーマツの監査部門において、上場企業等の監査主任を数社担当しています。最近はIFRS（国際会計基準）適用企業や暗号資産交換業、IPO準備会社等の難易度の高い監査業務にチャレンジしています。
それ以外にも所内のプロジェクトマネジメント研修を企画・開催するなど、これまでの業務で培ったノウハウを事業部内へ展開する取り組みも行っています。

Q.前職の仕事内容と、その内容が現在の仕事にどのように活かされているかを教えてください。

A.　2008年12月に有限責任監査法人トーマツに入所し、5年経過したところでコンサルティングファームに転職、その後再入所したという経歴です。
コンサルティングファーム在籍時には、IFRS移行企業の導入支援業務及びSAP導入プロジェクトにおけるPMO（プロジェクトマネジメントオフィス）業務に従事しました。
監査人としてキャリアスタートした私にとって、100%クライアントの目線に立って仕事をすることはとても新鮮でした。当時は大変苦労しましたが、その時教わった考え方やプロジェクトマネジメントスキルは監査一筋ではなかなか得られなかったと思います。
監査人として一線を引く必要があるものの、クライアントサービスという点では共通ですし、監査業務もある種のプロジェクト業務のため、当時の経験は今も業務に活かせています。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社したきっかけ、経緯を教えてください。

A.　大きく二点あり、一つは前職がつらかった（主に人間関係）こと、もう一つは監査人としてもっと学ぶべきことが有限責任監査法人トーマツにあったのではないかと思い直したことです。
一つ目の理由については、どの職場でも起こり得る話ですが、思い返してみると有限責任監査法人トーマツでの最初の5年間、人間関係でストレスを感じたことはなく、離れてみて初めて気づいた次第です。
二つ目の理由については、監査を一通り経験し、何でもできる気になって有限責任監査法人トーマツを飛び出したものの、実際は全然力不足で、コンサルタントとしてクライアントの課題を解決しないといけない局面で引き出しが全く足りないことに気付きました。

監査ではクライアントの取締役会の議事録を閲覧する手続があるのですが、当時はその情報の価値を理解できていませんでした。クライアントの社内資料にアクセスできるということは改めて特別な職業であると感じています。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社してよかったこと、現在の所属組織で働くことの魅力を教えてください。

A. 再入所して10年超経過しましたが、やはり人間関係で悩むことはなく、出戻りということで変な目で見られることもなく、自分には有限責任監査法人トーマツが合っていると改めて感じます。
業務面では毎年新しいことに挑戦することができており、足りなかった引き出しもどんどん増えていることが実感できています。

Q.今後のキャリアプラン、ビジョンをお聞かせください。

A. 有限責任監査法人トーマツでは監査業務に限らない、様々な経験が得られるチャンスがあるので、ぜひ活用していきたいと思っています。
今は新しく担当し始めたIPO準備会社に寄り添って内部統制の改善提案を行っています。そういった経験を若手メンバーにも共有しながら一緒に成長していければと考えています。

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

クロスアサイン制度で幅広い監査経験を積む

有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　金融事業部　東京事務所
スタッフ
金融機関からの転職／USCPAでの会計監査
2021年3月入社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.現在の仕事内容はどういったものですか。

A. 金融事業部の証券ユニットに所属し、主に外資系の証券会社やアセット・マネジメント会社の監査に従事しています。有限責任監査法人トーマツでは、「クロスアサイン」と呼ばれる、興味のある別の部署の監査業務等に関与できる制度があり、その制度を利用して、国内リース会社やクレジットカード会社の監査に関わったこともあります。監査業務について、友人などから単調な仕事という印象を抱かれることもありますが、関与するクライアントごとにそれぞれ業務内容や会社の雰囲気に特徴があり、また、監査チームごとにもチームの個性があるので、日々知的好奇心を刺激されながら、興味をもって仕事をすることができています。有限責任監査法人トーマツにはやりたいことをやらせてもらえる環境が整っていると思います。

Q.前職の仕事内容と、その内容が現在の仕事にどのように活かされているかを教えてください。

A.　前職はマーケットインフラ業界に属する、証券業と関わりがある事業会社に2年ほど勤めておりました。前職でも証券業に興味を持って働いていましたので、そこの軸は動かすことなく働き続けられればと考え、有限責任監査法人トーマツに転職後、証券ユニットへの配属を希望しました。前職でのクライアント先に転職後に監査という形でお世話になることもありましたが、事業会社として関わる場合と、監査法人として関わる場合とでクライアントの見え方が変わる部分もあり、最初は戸惑うことも多かったです。しかしながら監査はチームで行うものなので、上司や先輩、同期に助けてもらいながら楽しく働けています。前職はチームで動くことがあまり無かったため、これはチームで動く監査法人ならではの良いところだと考えています。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社したきっかけ、経緯を教えてください。

A.　前職は事業会社のため、ゼネラリストを育てることを目的としており、人事部の意向でキャリアを大きく決められてしまう部分がありました。働いているうちに、自分のキャリアを自分で決めたいと考え、転職活動を始めました。転職活動の過程でUSCPA（米国公認会計士）の試験に全科目合格し、有限責任監査法人トーマツをはじめとするBig4へ応募を決めました。他の監査法人ではなく有限責任監査法人トーマツに決めた理由は、面接において自分自身のパーソナリティをよく見てもらえたと感じたことと、社職員が有限責任監査法人トーマツで働いていることを誇りに思っていると感じたからです。特に監査品質について大きな自信をもっていることが感じられ、そのようなプロフェッショナルの中で働けることは非常に魅力的だと考えました。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社してよかったこと、現在の所属組織で働くことの魅力を教えてください。

A.　自分のキャリアや働き方について、自由度が想像以上に高いことに入社してとても驚きました。所属ユニットのパートナーやマネジャーは、キャリアについての自分の希望や考えに対し、とても丁寧に耳を傾けてくれ、更に、その内容に応えてもらえていると感じています。ライフイベントにも柔軟に対応してもらえる環境があることは長く働くことを考えた際に非常にありがたい点だと思います。また、先ほど少しお話に出しましたが、クロスアサインの制度を利用して、様々な業種のクライアントに関与でき、自分の興味とキャリアの幅を広げることができる点も魅力的に感じています。自分の意見や考えをそのまま伝えることができる環境、受け止めてもらえると信じられる環境というのはなかなか得ることができない、とてもありがたいものだと日々感謝しています。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社してよかったこと、現在の所属組織で働くことの魅力を教えてください。

A. 再入所して10年超経過しましたが、やはり人間関係で悩むことはなく、出戻りということで変な目で見られることもなく、自分には有限責任監査法人トーマツが合っていると改めて感じます。
業務面では毎年新しいことに挑戦することができており、足りなかった引き出しもどんどん増えていることが実感できています。

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

公務員の知見を活かし、地域の社会課題解決を支援する

有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　東日本第四事業部　仙台事務所
シニアスタッフ
官公庁（公務員）からの転職／パブリックセクター向けアドバイザリー
2020年1月入社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.現在の仕事内容はどういったものですか。

A. 公務員（行政職員）出身という背景もあり、主にパブリックセクター向けの業務に関与しています。
国や地方自治体、大学、公益財団法人等が行う、東北の産業復興、起業家育成、事業化支援、産業人材育成といった業務に携わっており、業務全体の企画や運営から個社に寄り添った伴走までフェーズも幅広く取り組んでいます。
例えば、被災企業と経営課題を議論し、課題に応じた専門家と連携しながら課題解決に向けて取り組んだり、
スタートアップの事業化に向けた実証試験に伴走するような業務もあれば、
地域へ若年層や女性起業家を呼び込み、地域でのビジネス展開を誘発しようとビジネスコンテストの立ち上げに取り組んだり、地域のDXを促進するため、各企業においてDXを推進する人材を面的に育成するような業務もあり、多岐にわたります。

Q.前職の仕事内容と、その内容が現在の仕事にどのように活かされているかを教えてください。

A.　前職では、産業振興部門や総務部門を経験しました。産業振興部門では、企業誘致や工場の新増設の支援など、また、総務部門では総合戦略、エネルギー計画などの策定や、広域連携、SDGsの推進などを担当しました。現在の業務でいうと、クライアント側の立場で仕事をしていましたので、クライアント側の意思決定の行われ方、業務の進め方、事業が実施される背景などの理解がしやすいと感じています。また、行政の政策形成で経験した企画立案やステークホルダーとの調整業務は、現在の業務で取り組んでいるプロジェクトの企画立案や運営面にも通じています。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社したきっかけ、経緯を教えてください。

A.　基礎自治体の行政職員として仕事をしていましたが、国への派遣をきっかけに、より広い視点で、より広い範囲にわたって社会課題解決や地域活性化に取り組みたいと考えるようになりました。
そんな中で、知人から有限責任監査法人トーマツで取り組んでいる業務の内容を聞き興味を持ちました。それまでは、監査法人として会計のプロフェッショナル集団という認識しかありませんでしたが、実際には多様なバックグラウンドを持った人たちが、それぞれの強みを生かしながら幅広い領域にサービス提供をしていたことに気付いたためです。ここでなら自身が考えていた、より広い視点、より広い範囲で、社会課題解決や地域活性化にアプローチできると考え応募に至りました。

また、面接・面談でお話しする中で視野の広さ、視座の高さ、職業人としてのプロフェッショナル意識の高さに感銘を受け、入社を決めました。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社してよかったこと、現在の所属組織で働くことの魅力を教えてください。

A.　クライアントから感謝の言葉を頂いた時などは入社してよかったと強く感じます。プロジェクトの中で個社にアドバイスを行う機会がありますが、その際にお礼の言葉や、プロジェクト終了後に取り組み状況の連絡を直接頂くことがあり、自身の仕事が役に立っていることを実感し、改めて入社して良かったと思います。
また、全国連携の業務なども含めて、入社前に思い描いていた以上に、様々なパブリックセクターの産業振興業務に関与できています。もちろん、プロジェクトを進める中で困難にも直面しますが、プロジェクトを通じて自身の成長を実感できていますので、転職時には迷いもありましたが、入社を決意してよかったと感じています。

Q.今後のキャリアプラン、ビジョンをお聞かせください。

A. これからもパブリックセクターを対象として、様々な社会課題や地域の活性化に取り組みたいと考えています。パブリックセクターは、社会情勢によって求められる仕事の内容も変わるため、社会情勢の変化に常にアンテナを張り、自分自身も変わり続け、学び続けて行かないといけませんが、様々な立場の方たちと協力し、幅広い課題に挑戦ができる分野です。今後、日本は人口が減少し、行政のリソースも減少していく一方で、社会課題はますます複雑多様化していくことが予想され、解決には様々な専門的な知識やネットワークが必要になります。有限責任監査法人トーマツは全国に拠点を設けて、地域に根差したサービス提供をしながら、グローバルで知見や事例を共有していますので、この強みを活用して、クライアントとともに新たな価値創出の仕組みを考え、実現させていきたいと思っています。

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

規制当局の動向を把握し、金融業界の課題解決を支援する

有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　金融事業部　東京事務所
スタッフ
官公庁（公務員）からの転職／金融機関向けアドバイザリー
2022年10月入社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.現在の仕事内容はどういったものですか。

A. 金融業界を対象とした会計に関するアドバイザリー業務全般に従事しています。金融機関は監督当局の定める様々なルールを遵守しつつ、時代に合わせて業務を変革していく局面にあるため、クライアントのニーズに応じて決算業務の効率化支援やサステナビリティ開示支援、制度改正対応など多岐にわたるテーマの仕事に携わっています。また、会計監査に携わる機会もあり、監査を通じて業容や会計実務の理解が深まっており、アドバイザリー業務を行う上でとても役に立っています。

Q.前職の仕事内容と、その内容が現在の仕事にどのように活かされているかを教えてください。

A.　公務員（行政職員）として、地方公共団体の監査や金融機関の検査、会計関係の法規に関する業務などに従事していました。金融機関は他業種と比べると規制が多い業種であるため、行政職員として業務に携わった視点を持っていること、また、さまざまな規制や制度の背景を把握していることが企業の実務をより解像度高く理解する助けになっているのではないかと考えています。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社したきっかけ、経緯を教えてください。

A.　金融機関を対象とするアドバイザリー業務ポジションを検討していた際、有限責任監査法人トーマツは金融機関のクライアントが多く、金融業界に強みがあるのではないかと判断し応募しました。
入社を決めた理由としては、所属する組織が新しく日々成長していること、アドバイザリーだけでなく会計監査にも携わりやすい体制になっていること、また、選考を進める中でグループ内出向制度や海外駐在の機会があることなど、今後のキャリアの広がりや柔軟な働き方の可能性を感じたためです。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社してよかったこと、現在の所属組織で働くことの魅力を教えてください。

A. デロイト トーマツ グループには様々な法人があり、法人を超えて連携することや、関与したい仕事があった際に出向できる制度があることなど、グループ一体でプロジェクトや個人のキャリア支援に取り組んでいるところが良いと感じています。また、様々なバックグラウンドや多様な専門性を持ったメンバーが在籍しているため刺激を受けることが多くあります。中途入社者も多いため、上下関係を強く意識せず、お互いにサポートし合う風土ができているように感じます。

Q.今後のキャリアプラン、ビジョンをお聞かせください。

A. 昨今はAIをはじめとする技術進歩やサステナビリティの機運の高まり等から日々の変化のスピードがより速くなっています。このような状況においても、会計は重要分野の一つであり、他の分野と融合することで業務領域が更に広がっていると感じています。そうした中で、有限責任監査法人トーマツに所属する様々な分野の専門家から学べる環境や、キャリアを支援する様々な制度を活用しつつ、会計を軸として強みとなる領域を見つけて、確立することが現在の目標です。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

会計監査業務とITの高度な融合を推進する

有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　金融事業部　東京事務所
ジュニアスタッフ
IT企業からの転職／会計監査業務のITによる効率化・高度化
2023年8月入社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.現在の仕事内容はどういったものですか。

A. 会計監査チーム向けに監査業務の効率化や高度化を目的とした、ITシステムの開発や運用業務を行っています。具体的には、現在監査チームが手動で行っている業務をPythonやRPAツールを用いて自動化を実現し、業務時間の短縮や付加価値の創出を実施しています。

例：
・Pythonを用いて、資料内の個人情報を自動で検出しマスキングを行うツールの開発、運用
・SQLとBIツールを用いて、社職員の労働時間の可視化と分析を行うツールの開発、運用
これらのプロジェクトは監査チームからの相談をもとに始まることもありますし、チーム内でアイデアを募りそこから発展させて始まることもあり、プロジェクトの自由度や主体性はとても高いと感じています。

Q.前職の仕事内容と、その内容が現在の仕事にどのように活かされているかを教えてください。

A.　前職では金融事業を中心としたグループ会社に向けたITシステムの提供を行っており、インフラエンジニアとして各社のサーバー・ネットワークの構築保守業務や、システムエンジニアとして機械学習を用いたシステム開発業務に従事していました。
現在の業務の1つとして、先ほどの業務内容でも挙げた資料内の個人情報をマスキングするツールの開発を行っています。こちらのプロジェクトの発端は「自然言語処理のPythonライブラリを何か効率化に活かせないか」といった相談であり、前職にて要件定義から携わり自身のアイデアをもとに提案を行ってきた経験が活かされていると感じています。また、本チームではシステム開発にあたり、外部への委託は行わずチーム内で完結させることとしており、この観点で上流から下流までの開発工程の経験が活用できていると考えています。
その他前職にてインフラエンジニアとしてAWSを取り扱っていた経験を活かし、クラウドサービスを用いた社内向けWebアプリケーション開発のプロジェクトを現在進めています。こちらは本チームで初めてのクラウドサービスの導入であり、チームの新たな取り組みに携わることができ大変やりがいを感じています。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社したきっかけ、経緯を教えてください。

A.　前職の新卒入社から3年のタイミングで、これまでの経験を活かした新たな挑戦と新たな専門性の習得を目的に転職を考え始めました。
その中で本チームの募集記事を見つけた際、有限責任監査法人トーマツが会計士でなくITエンジニアを募集していることに正直驚きました。ただその中で「会計監査×IT」というまだ発展途上な領域であり新たな挑戦を行うに当たってこの上ない環境だと感じましたし、自身のITエンジニアとしての経験を活かすことができるとともに、成長が図れそうな環境であることに魅力を感じ応募しました。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社してよかったこと、現在の所属組織で働くことの魅力を教えてください。

A. 特によかったと感じる点は、より成長できる環境であるという点です。
基本的に業務は自身の裁量をもって臨むことができ、なおかつ自身の意見や考えをダイレクトに新規開発や改善に繋げることができるため、その分責任は生じますが主体的に成長できる環境であると感じます。加えて有限責任監査法人トーマツ全体はもちろん、本チームにおいても様々な経験やスキルをもったメンバー方がいて、業務の中で新たな観点が得られたり、困った時には十分な助言をしてもらえる環境でもあります。
その他ワークライフバランスについて制度が整っていることはもちろんですが、社職員の意識がとても高いと感じています。そのため入社して以前よりプライベートも充実させることができ、仕事の時はより仕事に集中できるようになっていて、精神的に余裕を持った生活ができるようになったと感じています。

Q.今後のキャリアプラン、ビジョンをお聞かせください。

A. 今使用しているソリューションだけに目を向けるのではなく、日々生まれ移り変わっていくIT技術に対してアンテナを高く持ち、より良い技術を取り入れながら、より良い効率化を目指し業務を行っていきたいと考えています。その中でもAIや機械学習は重要性が増してきている領域だと感じていて、引き続きキャッチアップを続けるとともに挑戦を続けていきたいです。そしてそのIT技術の知識・視点をもって、会計監査の新たな効率化や高度化を進めていきたいと考えています。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

農業分野の課題解決を支援し、農政と農業現場の結節点となることを追及する

有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　パブリックセクター・ヘルスケア事業部　東京事務所
スタッフ
官公庁（公務員）からの転職／パブリックセクター向けアドバイザリー
2023年9月入社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.現在の仕事内容はどういったものですか。

A. 農業分野向けのコンサルティング・アドバイザリー業務に従事しています。入所後は主に大手協同組合の経営課題解決等に関するアドバイザリー業務、単位農協向けの経営管理体制の高度化支援業務等に携わっています。具体的には、単位農協の中期経営計画や農業振興計画等の策定に向けたアドバイザリー提供、人事制度の高度化・再構築に向けた伴走支援、内部管理体制の高度化に向けた支援・研修等です。
また、他部門と連携し、大手協同組合や自治体等の環境保全型農業の取り組みに向けた調査検討業務等、農業分野の脱炭素・サステナビリティに関する業務にも携わっています。
所属部署では行政、医療、教育分野などの公共性の高い分野で社会貢献に資する業務に取り組んでいる中、所属チームとしては農業分野を切り口とした地域・社会課題の解決に向けて業務に取り組んでいます。

Q.前職の仕事内容と、その内容が現在の仕事にどのように活かされているかを教えてください。

A.　省庁にて農林水産業に関する施策の企画調整に関する業務に従事していました。具体的には、農業金融関係、地域作物関係、穀物関係、農政の根幹となる基本法（食料・農業・農村基本法）見直し関係等に携わる業務です。
現在の業務においても同一の領域（農業分野）に対するコンサルティング・アドバイザリー業務のため、前職の経験を通じて得た農業政策等の専門知識・知見を活かして業務に取り組んでいます。とりわけ地域の農業に根差した大手協同組合向けの支援業務においては、変わりゆく農業情勢・地域情勢を踏まえた実効性のある経営課題解決のためのアドバイザリー提供に軸足を置いて取り組んでいます。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社したきっかけ、経緯を教えてください。

A.　監査法人として監査業務等を通じ蓄積した全国の大手協同組合に対する業界知見とリレーション、また、デロイト トーマツ グループ全体として農業分野に提供しているサービスを通じ蓄積されたノウハウが、農業分野の地域・社会課題解決に向けて取り組むにあたり強みを有していると考えられたためです。
前職での経験また自身が地方の農家出身であること等に鑑み、農業分野の地域・社会課題解決に向け、農業政策という国全体の課題解決のマクロ的な視点から現場の個別課題解決に向けたミクロ的視点までの架け橋や結節点の機能が重要と考えています。

そうした中で、地域と農業のハブ機能を有する大手協同組合等へのサービス提供を通じて蓄積された当グループ内の知見・リレーションと自身の前職での知見等を踏まえ、地域の農業の課題解決に向けた結節点として機能することで、農業分野の課題解決に資する業務に従事できるのではないかと考えたことが入社を決めた一番の理由です。
また、自身が育児というライフステージの変化もあったことを踏まえ、採用活動を通じてデロイト トーマツ グループの働き方や制度面の職場環境が、現状のワークライフスタイルに適していると考えられたことも入社の理由の一つです。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社してよかったこと、現在の所属組織で働くことの魅力を教えてください。

A. 異業種からの転職にも関わらず、領域の親和性の高さを持って入所後すぐに業務に入り込みやすかったことです。また、入所前は監査法人に対して「会計人の集まり」というイメージを強く持っていましたが、実際には多様なバックグラウンドの人が、それぞれの強みを活かし、会計に限らず様々な領域でサービスを提供していることも入り込みやすさにつながっていると感じています。
これまで当グループとして関係性を構築していた単位農協をはじめ地域に根差したクライアントに直接足を運び、前職での知見が実際にクライアントへのサービスの価値提供に繋がっていると実感できた際は、率直に入社してよかったと感じました。このような業務を通じて、農業分野の地域・社会課題の解決に向けた結節点として機能していけるように取り組んでいきたいと考えています。
デロイト トーマツ グループの柔軟な働き方や職場の風土、制度面等の職場環境により、自身の裁量を踏まえて仕事と育児等のバランスを取った働き方が実現できていることも入社してよかった点です。

Q.今後のキャリアプラン、ビジョンをお聞かせください。

A. 農業分野を切り口とした地域・社会課題解決に向けて、これまで当グループ内で蓄積された知見と前職の知見を踏まえ、農政と農業現場の結節点となることを追求していきたいです。
近年の世界の食料需給の変動等に伴って一層国内農業の持続的な発展が求められる中、今後の少子高齢化社会による国内市場縮小や担い手問題など農業分野の課題はさらに深刻化していく様相を呈しています。一方で、食料安全保障や脱炭素・サステナビリティ等のアジェンダに対して、国産食料の供給、環境配慮型農業の実践によるGHG削減等、農業の位置づけや重要性はより高まっていくものと考えています。
そうした中で、目まぐるしい情勢変化にキャッチアップしながら、官民の垣根を越えて農業現場・地域の課題にボトムアップ型でアプローチしていくことを通じて、社会全体の課題解決に資するプロフェッショナルになることを目指していきたいです。
有限責任監査法人トーマツには、全国の各拠点が提供する地域に根差したサービス提供を通じて、地域・社会課題解決にアプローチできる体制が整っていると実感しています。

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

海外オフィスメンバーと協業して、グループガバナンス構築の支援を行う

有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　監査アドバイザリー事業部　内部統制・経営体制アドバイザリー　東京事務所
シニアスタッフ
メーカーからの転職／グループガバナンス構築アドバイザリー
2021年5月入社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.現在の仕事内容はどういったものですか。

A. 主に日本に本社があり、海外に子会社を持つクライアント向けにグループガバナンス体制構築に関するアドバイザリー業務を行っています。具体的には、海外子会社の各種社内規程の整備・運用状況の確認および財務分析といった実態調査や海外子会社から親会社へのレポーティング体制見直し等とアドバイザリー内容は多岐に渡ります。本業務に携わるようになってから約3年が経ちますが、様々な業種のクライアントにおいて海外子会社に対するガバナンス体制構築のニーズはますます高まってきており、語学力と内部統制の知見を兼ね備えた人材のニーズも高くなっていることを感じています。

Q.前職の仕事内容と、その内容が現在の仕事にどのように活かされているかを教えてください。

A.　前職では化学メーカーに約4年間勤務していました。最初の2年間は経理部に所属し主に月次決算業務や連結決算業務を行いました。ちょうど2年が過ぎた頃に経営戦略室に部署異動となり、最後の2年間は経営会議の運営補佐として月次資料の作成や、予算策定業務、担当子会社のモニタリング業務をいました。
現在の業務では、特に、クライアントの経理部・経営戦略室・内部監査室の方々とプロジェクトを進めることが多いため、実務者として実際に決算や子会社のモニタリング業務に携わっていた経験が、クライアントの現状の決算・財務プロセスやガバナンス体制を理解する上で大きく役に立っていると感じています。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社したきっかけ、経緯を教えてください。

A.　まずUSCPA（米国公認会計士）の資格合格が転職を考えるきっかけとなりました。前職では決算対応等で監査法人の方とお話しする機会が多々あり、また経理部長が監査法人のアドバイザリー部門の出身でもあったため、監査やアドバイザリーの仕事には少なからず興味がありました。そのため、ハードルの高さを感じつつも監査法人が転職先の候補となりました。
面接を通じて、決算効率化や海外子会社管理に係る案件を多く手掛けていることを確認することができ、これまで自分が携わっていた業務に関する専門性をより一層高められると感じたため、有限責任監査法人トーマツへの入社を決めました。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社してよかったこと、現在の所属組織で働くことの魅力を教えてください。

A.　入社してよかったことの一つが海外経験の豊富な上司と働く機会に恵まれ、様々な海外案件に携わることができたことです。前職では海外子会社に関連する業務が少なく、業務の中で英語を使用する機会がありませんでした。現在は、クライアントの海外子会社の担当者や海外のデロイトメンバーとのやりとり等、日常的に英語を使用するのが当たり前の環境に身を置くことができています。
もう一つは様々なバックグラウンドを持つ上司から適宜フィードバックを受けながら仕事を進めることができる点です。前職では上司が複数いるということはなく、基本一人からフィードバックを受けるのみでした。現在はプロジェクトごとに、「監査」「ITシステム導入」「海外子会社管理」等各領域に強みを持つ上席者とディスカッションしながら業務を進められることは、働く上で大変良い経験となっています。

Q.今後のキャリアプラン、ビジョンをお聞かせください。

A. 引き続き、現在行っているグループガバナンス体制構築に関するアドバイザリー業務の他、内部統制に係る業務等、経営体制強化に欠かせないテーマに関わる案件に幅広く携わり、将来マネジャーとしてプロジェクトを率いていけるだけの力を培っていきたいと思います。転職者が中心の部署であるため、様々なバックグラウンド・強みを持つ同僚の中で埋もれないよう、「この件に関しては、あの人に相談しよう」と名前が挙がるような差別化できる自分の強みを確立できればと思います。

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

会計領域の経験とUSCPAを基に、アドバイザリーと会計監査を兼務する

有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　監査アドバイザリー事業部　会計・財務報告アドバイザリー　東京事務所
スタッフ
メーカーからの転職／経営業務支援アドバイザリー／USCPAでの会計監査
2023年9月入社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.現在の仕事内容はどういったものですか。

A.　現在携わっている業務は主にアドバイザリー業務及び監査業務の二つです。
アドバイザリー業務では、主として大手小売企業に対してFMS（経理業務支援）を行っています。海外関係会社に対する会計関連のヒアリング・データ集計、会計論点に関する問い合わせ対応、グローバルな社内会計方針策定に関わる事前調査等を行っています。クライアントの課題を聞き、クライアントの状況を理解するために、定期的にクライアントのオフィスで一緒に仕事をして、建設的な関係の構築に努めています。
監査業務においては、大手製造業の監査に携わっています。事業会社で経理の経験を積んできましたが、会計・監査に関する専門性を培いたいと考えて監査業務への関与も希望しました。監査業務は初めてではありますが、監査チームのメンバーと協業して従事しています。

Q.前職の仕事内容と、その内容が現在の仕事にどのように活かされているかを教えてください。

A.　前職では大手製造業で経理をしていました。本社経理・財務部で連結・単体決算対応、IFRS導入対応、債権管理や銀行対応、子会社で管理会計,原価監査対応等幅広い業務に従事していました。
前職での経験は主に以下2つの点で現在役に立っています。
一点目として、事業会社における経理業務に関する見識です。例えば、経理業務支援のプロジェクトにおいては、前職での連結決算の業務やシステム対応について全体像を把握しているため、前職とアドバイザリー先でのプロセスの異同を意識することができます。また、プロジェクト開始時に経理の仕訳取引の流れを理解する必要があった時には、前職における勘定科目の仕訳方法の検討経験や、問題が生じた際のITシステムでの自動処理も含めた全体的な仕訳確認の経験を活かすことができました。その他にも、一般的な「調達・営業・生産管理・人事等」と「経理・財務」との関連性を把握していることから、クライアントの業務や内部統制を理解する際に役立っています。
二点目として仕事の進め方についてです。前職においても他部署、監査人や金融機関、取引先等様々な関係者と関わって仕事をしていました。現在の業務においてもチームメンバー、クライアント、クライアントの相対する関係者等と関わっています。前職で学んだクライアントの関係者は何を課題としているのか、目の前の業務の位置付けは何かと意識することは、現在の業務においても大切であると実感しています。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社したきっかけ、経緯を教えてください。

A. 新卒当時から専門性とグローバルに対する関心がありました。前職在籍時は経理財務に関して広く経験していましたが、さらに知識を深めたい・実務に関わる英語力を鍛えたいと考えてUSCPA（米国公認会計士）の勉強を始めました。USCPAの勉強で会計・監査・税務・管理会計・ITや英語力を培うなかで、実務を通じてさらに高度な専門性を得たいと考え、USCPAの合格を機に思い切って転職を志しました。転職活動では他社の会計アドバイザリーポジションも受けていましたが、有限責任監査法人トーマツの面接は穏やかな雰囲気で進められ、基本的な用語に対しても丁寧に回答してもらうことができ、また、どのような仕事をしたいかという希望に対しても積極的に耳を傾けてくれることが感じられ、「やりたいことができそう！」「やっていけそう！」と思い入社を決めました。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社してよかったこと、現在の所属組織で働くことの魅力を教えてください。

A. 入社してよかったと感じることは主に3点あります。一点目として、知識・見識の習得の機会が豊富にあることです。例えば、私は業界が異なる企業のアドバイザリーと監査を兼任していることから、常に異なる角度から分からない課題に直面します。有限責任監査法人トーマツ内には、マニュアルや知識体系、e-Learningが非常に豊富にあり、同僚や上席者に質問した際も丁寧かつしっかりと回答してもらえる環境です。さらに、プロフェッショナルファームということから最先端のクライアントニーズに対応しており、社内の展開される情報や他のジョブの関係者と話す機会が多いことも刺激になります。
二点目として、グローバルなファームである点です。アドバイザリー業務においてはクライアントの海外関係会社とのオンラインミーティングへの参加や、海外関係会社の担当者とメールでやり取りする機会がありますし、監査業務においてはグループ監査対応のため、海外の監査チームとも連携しています。経験を積み、英語力を鍛えて、グローバルなプロジェクトでさらに価値を提供していきたいです。
三点目として、社職員が社内ネットワークを構築できるように有限責任監査法人トーマツが組織として取り組んでいる点です。私の所属する監査アドバイザリー事業部はインクルーシブな雰囲気で、入社した際の事業部全体での懇親会、クリスマス会などを通じてジョブで関わりない方とも交流を深めることができています。また、事業部内やチーム内での勉強会や懇親会も定期的に実施されます。入社前は不安もありましたが、同事業部やチームの同僚・先輩としっかりとコミュニケーションを取れて協働できていると感じます。

Q.今後のキャリアプラン、ビジョンをお聞かせください。

A. まずは簡単なことからでもいいので、有限責任監査法人トーマツ内で相談・依頼される人材になりたいです。クライアントやチームメンバーと誠実かつ前向きに仕事をし、その積み重ねを通じて、事業会社出身、USCPA、アドバイザリー・監査で得た知見に基づいた専門性のあるキャリアを構築していきたいです。

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

九州発の地域振興と国際協力を重視し、研究開発と人材育成を行う

有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　西日本事業部　西日本アドバイザリー　福岡事務所
マネジャー
シンクタンクからの転職／スタートアップ企業支援
2017年8月入社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.現在の仕事内容はどういったものですか。

A. 九州を中心に、研究開発型スタートアップ支援、クロスボーダーのオープンイノベーション支援、大学・高等専門学校（高専）の技術による国内外の社会課題解決プログラム企画・運営など、科学技術イノベーションとグローバルを軸に活動しています。
例えば、JICA（国際協力機構）と高専と連携して実施している、全国の高専生の技術とアイデアでアフリカの社会課題の解決に取り組むプログラムにおいて、2019年開始当初からプログラム全体の企画とマネジメントを担ってきました。このプログラムは2023年「第5回日本オープンイノベーション大賞 内閣総理大臣賞」(内閣府主催)を受賞しました。
ルワンダにおいては、九州の大学等と連携して、宇宙分野の人材育成や、ルワンダ国立大学に航空宇宙工学科を作るサポートをしています。また、モンゴルでは、現地のFintechやAI分野等のスタートアップと日本企業・投資家とのビジネスマッチングなども行っています。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社したきっかけ、経緯を教えてください。

A.　東京の大学で統計や社会調査、大学院で都市計画を学び、建設コンサルティング会社のシンクタンクに就職しました。東京を拠点に、アジアやアフリカの7カ国で現地政府の産業振興・資源経済・投資促進・中小企業及び環境向け金融などに係る調査・政策立案・実施を行い、インフラやプラントの輸出支援にも従事。年の半分を海外に出張する生活で、いろいろな国のために仕事をすることにやりがいを感じていました。一方で、30歳になったタイミングで、自分の思い入れのある土地で新しい産業を作る仕事がしたいという思いが強くなり、生まれ故郷の福岡にUターン。有限責任監査法人トーマツでは地域に新たな産業を作るベンチャー支援業務ができて、行政と仕事をすることも多いと知り、自分の経験を生かせると思い入社を決めました。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社してよかったこと、現在の所属組織で働くことの魅力を教えてください。

A.　このチームには「九州でイノベーションエコシステムを構築する」という明確なビジョンがあり、私の入社後も様々な分野の人材が集まり、どんどん勢いが増しています。多様な専門性を持つメンバーをリスペクトして、チャレンジを後押しする受容性の高さや応援し合う姿勢が魅力です。

Q.今後のキャリアプラン、ビジョンをお聞かせください。

A.　最近の私のテーマは、地理的・分野的・手法的なフロンティアでイノベーションを創出することです。そのために、これらの領域を越えた人的交流を生み出したいと考えています。人口が減少する日本において、日本国内や日本人だけでイノベーションを創出したり、経済成長を実現することは難しくなるでしょう。しかし、例えば大学等の研究や科学技術などをフックにして、国内外の様々な分野の人たちとつながっていくことで、日本の成長はもちろん他国と共に成長していく世界観を創ることができると信じています。
また、東京から福岡へUターンしてきた身として、今はまだあらゆる仕事が東京に集中していますが、地方で自由度の高い暮らしをしながらも、海外とつながって面白い仕事ができることを体現していきたいです。

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

DX支援や人材育成を行い、地方創生を追求する

有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　西日本事業部　西日本アドバイザリー　福岡事務所
マネジャー
外食関連企業からの転職／スタートアップ企業支援
2022年2月入社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.現在の仕事内容はどういったものですか。

A. 中小企業におけるDX伴走支援や普及啓発セミナーの企画・運営、DX推進人材育成のほか、企業における人材育成・組織体制構築等の業務に従事しています。前職で人事組織の立ち上げやマニュアル作りから関わり、中小企業が陥りがちな経営課題や現場の感覚をリアルに経験してきたため、何かのスペシャリストというよりも全体をみることができるのが私の強みかもしれません。
現在は、いくつかの取り組みを行っています。一つは、海面養殖魚生産プロセスの変革です。養殖が盛んなある地域で、養殖の技術をデジタルで最適化するプロジェクトをいろいろなプレイヤーと進行中で、うまくいけばインパクトのある大きな動きに発展しそうです。ほかに、中小企業向けの事業革新研修を準備したりしています。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社したきっかけ、経緯を教えてください。

A.　福岡の外食関連企業にて営業から商品開発、人事やマネジメントシステムの構築、経営まで幅広い業務に従事しました。
一方で、宮崎出身の私は、地元や地域のために何かしたいと長年考えていました。地域の食材を探していたとき、地方には地域資源や価値が点在しているのに、過疎化や流通やマーケティングの問題でうまくアピールできていないことや赤字になっていたりする現実を知りました。そこで、自分の経験をもとに地方の企業をサポートすることで地域経済を活性化したいと思い、転職活動を始めました。友人から有限責任監査法人トーマツの西日本アドバイザリーチームのことを聞き、ぜひやってみたいと応募しました。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社してよかったこと、現在の所属組織で働くことの魅力を教えてください。

A.　企業の規模が大きいからこそ、できることがたくさんあります。このチームは共通のビジョンのもと、それぞれが自らの専門性や個性を存分に発揮して、地域のエコシステムの在り方を探りながらチャレンジしています。夢を語ると賛同してくれる仲間がいて、チームとして大きなことを成し遂げられる環境です。私はチームのメンバーがとても好きで、世の中に価値のある重要なことをやっていると自負しています。

Q.今後のキャリアプラン、ビジョンをお聞かせください。

A. いろいろな活動をしていますが、私が当面目指しているのは地方創生の一つのモデルケースを作ることです。地域の資源を生かした産業を活性化することで、地元の人が自分の地域に誇りを持ち、笑顔が広がる。これこそ私が考える地方創生のあるべき姿であり、そのモデルを全国に広めていくことが使命だと考えています。
さらに私たち有限責任監査法人トーマツが、人事や広報、新規事業、ビジネスマッチング、海外展開など、ビジネスをする上で必要なあらゆることをサポートできる体制を整えることができればと考えています。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

地域イノベーションエコシステム構築と人事支援を行い、地元九州に貢献し、企業の挑戦をサポートする

有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　西日本事業部　西日本アドバイザリー　福岡事務所
シニアスタッフ
メーカーからの転職／スタートアップ企業支援
2020年5月入社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.現在の仕事内容はどういったものですか。

A. 大きく2つの軸があります。一つは地域におけるイノベーションエコシステムの構築です。自治体や地域の企業、金融機関、専門家など、さまざまなステークホルダーと協力しながら、その地域で奮闘する起業家が挑戦を続けられる環境や土壌づくりに取り組んでいます。
もう一つは、個社に対する人事領域を軸とした伴走支援です。人や組織への興味、過去の人事経験を生かしながら、スタートアップやベンチャー、中小企業の採用や組織づくりのお手伝いをしています。人事の話は事業や経営に直結していて、どの企業にも何かしらの悩みがあるものです。でも、この領域は課題に対してアクションすればすぐに変化できるものではないことが多く、明確な答えがないことも多いと思うのです。だからこそ、起業家や経営者と一緒に悩み考えるスタンスを大事にし、日々尊敬できる多様な起業家や経営者から学びをいただきながら推進しています。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社したきっかけ、経緯を教えてください。

A.　新卒で総合化学メーカーに入社し、新卒採用や若手研修、工場での人事業務全般に従事して、一定のやりがいを感じて過ごしていました。しかし、プライベートで社外の勉強会や集まりに参加する中で、自らのミッションやWillに純粋に向き合うスタートアップの起業家たちやそこで働く人に出会い、私は自分自身の根底の気持ちに向き合い、社会のために夢中になれているだろうかとハッとしました。同時期に、転勤で地元の九州に戻ってきており、その際、私は九州の人間で、地域に尽くすことでより充実感を得られると実感しました。そこで、スタートアップの支援と、地域のために何かしたいという思いから、有限責任監査法人トーマツに転職しました。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社してよかったこと、現在の所属組織で働くことの魅力を教えてください。

A.　私たちのチームは共通の目指す世界と価値観を持ち、自分たちの利益のためではなく、それぞれが自分の人生のアジェンダを重ねながら目指す世界へと向かっています。尊敬できるメンバーばかりで、監査法人として中立の立場であるため、様々なステークホルダーと大きな動きを作っていけること、デロイト トーマツ グループのリソースを最大限に活用して起業家やクライアントに価値提供できることが、このチームで働く魅力だと思います。
私自身は、支援する相手のことを愛し大事に想い、その方の思いや成し遂げたい世界に寄り添いながら、一緒に考えたり悩んだりすることがとても大切だと感じています。辛いときもうれしいときも同じ景色を見ながら、共に成長していくことが面白くやりがいを感じています。
また、個社や経営者個人への向き合いだけではなく、マクロに動きをつくるところに携われるのも魅力です。数年関わっている地域でのイノベーションエコシステム構築の事業では、コツコツ積み上げたことで少しずつコミュニティが拡大していき、そこで出会った人たちが新しい取り組みを始めたり何かが生まれたりする瞬間に立ち会えることがうれしいです。仕事を通して幸せをかみしめています。

Q.今後のキャリアプラン、ビジョンをお聞かせください。

A.　今取り組んでいることを引き続きやった上で、今後は地域の中小企業の経営支援にもより力を入れて関与していきたいです。伴走支援をする中で、とても素晴らしい技術や思いを持っている経営者に出会ってきました。お話を聞いていると、相手の方や企業を心から尊敬し好きになり、自分に何ができるだろうと考えます。
企業が成長していくために、次世代経営者やマネジメント層の育成、新規事業の創出が必要になるケースがあります。新規事業の創出には同時に組織の風土づくりも重要なのだと感じています。地域で働く皆さんの自己肯定感が上がり人と組織が成長すると、地域ももっと元気になっていくと思います。中小企業は歴史がある企業も多く、創業時から育まれてきた組織文化や価値観を大事にしながらも、人や組織が変化していく過程に関わり、熱い思いを持ち行動する方々の次の一手につながるところに関わりたいと願っています。

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

アクセラレーションプログラムを推進し、スタートアップと中小企業の支援を行う

有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　西日本事業部　西日本アドバイザリー　福岡事務所
シニアスタッフ
スタートアップ企業からの転職／スタートアップ企業支援
2021年4月入社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.現在の仕事内容はどういったものですか。

A. 主にスタートアップ向けの支援としてアクセラレーションプログラムをメインとした各種支援プログラムと、中小企業を対象としたアトツギ支援プログラム、新規事業・刷新事業創出プログラムに従事しています。自分が起業を経験したからこそ、このタイミングで何が大変だったかなと実体験に即して考えながら、事業の提案に入れるように心がけています。福岡県が行うリリース投下型の新しいアクセラレーションプログラムでは、目標達成に向けて徹底したコミットメントと伴走支援を行ってきました。1年目からプロジェクトマネジメントを担当してきた愛着のある事業で、社内では全国的にベンチマークされている取り組みの一つです。年々関わる企業が積み上がり、プロジェクトが終わってもご相談いただくことが増えていて光栄です。これからもしっかりアップデートして、結果を残していきたいと思っています。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社したきっかけ、経緯を教えてください。

A.　もともと起業に興味があり、大学生になったら起業したいと考えていました。九州の大学に入学し、まずはその地域のスタートアップの創業初期に参画。その後、在学中に自分でデザインやウェブ制作の受託事業を始めて、規模は小さいながらも上流から下流まで全て経験しました。大学卒業後は、実際に自分で事業の立ち上げを行いました。自分がプレイヤーとして事業を推進していた際に様々な課題感を抱えており、今度は支援者側として大企業のリソースとアセットを活用して挑戦するプレイヤーに寄与したいと思い、有限責任監査法人トーマツへの入社を希望しました。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社してよかったこと、現在の所属組織で働くことの魅力を教えてください。

A.　チームの魅力は大きく3つあります。まずは、チャレンジに対して前向きなところです。新しい取り組みや変革に対して前向きな雰囲気があり、応援し後押ししてくれます。自分が考えた新しい取り組みが事業に追加されると喜びを感じます。次に、プロジェクト単位で行動するとき、どんな案件においても裁量を持って取り組むことができることにやりがいを感じます。自発的に行動する人には圧倒的に成長できる環境が整っています。
また、仕事とプライベートを両立しやすいことも、このチームの魅力です。担当部門パートナーが「家庭が第一」と公言し、家族や子どもを最優先してくれるため、メンバー間で気持ちよくカバーしサポートし合う態勢ができています。家庭のある人でも、安心して働くことができます。

Q.今後のキャリアプラン、ビジョンをお聞かせください。

A. まず自分のためには、新しい取り組みやチームとして未開のプロジェクトに関して、積極的かつ大胆に挑戦していくつもりです。そして、チームのためには、チームメンバーがそれぞれイキイキと取り組めるために最適な業務環境を整えること、笑いと真剣が介在する健全な職場環境を作ることが私の役割だと捉えています。もともと風通しがよく、何でも言い合える職場ですが、楽しくリラックスして発言できる雰囲気づくりにこれからも貢献していきます。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

広告代理店の経験を活かし、
九州と四国の企業成長を促進する

有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　西日本事業部　西日本アドバイザリー　福岡事務所
スタッフ
広告代理店からの転職／スタートアップ企業支援
2022年8月入社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.現在の仕事内容はどういったものですか。

A. 主に地方に特化したマーケティングの支援に携わっています。また、行政が主催する様々なテーマの事業運営をきっかけに、九州と四国の一部のエリアのスタートアップや中堅・中小企業の皆さんと出会い、事業成長に向けて様々な取り組みを行っています。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社したきっかけ、経緯を教えてください。

A. 福岡出身で東京の大学を卒業後、銀行、メディア、総合広告代理店にて営業やプランナーとして仕事をしてきました。その間、九州に根差す多くの挑戦者と出会い、皆さんの情熱や誇りに触れ感銘を受ける一方で、地方独自の課題も目の当たりにしてきました。
ただ、前職時代は、例えばファイナンスや広告といったある特定の領域でクライアントを支援することしかできず、地方に根差した企業の根本的な課題解決につながらないもどかしさを感じていました。そんな中、有限責任監査法人トーマツではクライアントの事業成長という目的に対して、選択する手段やチャネルの自由度が高く取り組むことができる環境があり、何より九州をはじめ、地方ブランドを本気で変えていこうというマインドにあふれていたため、ワクワクして入社しました。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社してよかったこと、現在の所属組織で働くことの魅力を教えてください。

A. チームメンバーは年齢もバックグラウンドも多様性にあふれており、何かしらの分野で突出したプロフェッショナルが多く所属しています。私にはできないことを得意とするプロがそろっているので、そうしたメンバーを巻き込んで一つの領域だけではなく体系的にクライアントの課題を解決していけるところに大きな魅力を感じます。また、特定の飛び抜けたスキルを持っているメンバーには独特な奇抜性や人としての奥深さがあり、そういった特性を身近に感じながら仕事をしていると、自ずと視座が高まり、自分自身が豊かになっていく感覚もありますね。
このチームではよく「チームを利用する」というフレーズが使われます。そうした思考を通じて自分がどうありたいかを定義し、その実現に向けてひた走る人はきっと幸せになれる環境です。

Q.今後のキャリアプラン、ビジョンをお聞かせください。

A.　やや誤解を生む表現かもしれませんが、チームとして活動しない時間・活動を増やしていきたいです。
プロボノ的に支援先の実業に取り組んでいくこととかがイメージに近いですが、地方でマーケティング支援をしていると、その支援スタイルが実務に寄っていく感覚があります。この領域に限った話ではないと思いますが、地方の挑戦者に寄り添いたいと本気で思うのであれば、実業を自分で回すことで自分も挑戦者と同じ痛みを知ること、でも楽しみながら、そして挑戦者と同じ感情で事に当たることができるプレイヤーでありたいと考えています。

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

官公庁や行政案件のサポートを通じて、チームの負担を軽減する

有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　西日本事業部　西日本アドバイザリー　福岡事務所
ジュニアスタッフ
金融機関からの転職／スタートアップ企業支援
2023年2月入社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.現在の仕事内容はどういったものですか。

A. アシスタントとして、フロントオフィスメンバーのフォローを行っています。主に官公庁や行政案件の業務で伴走支援に入り、日程や補助金管理、支援先スタートアップへのフォローアップなどの細かなやり取りやプレスリリースの作成を行っています。必ず行うべき業務が決まっているわけではなく、フロントオフィスメンバーのフォローを行いながら、次に必要な資料の用意や作成、ワークフローの手続きの準備を行っています。特にフロントオフィスメンバーの負担が重くなる時期や負荷の高い業務があった際は、可能な限りフォローを行い、負担を軽くできるように心がけています。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社したきっかけ、経緯を教えてください。

A.　福岡の大学を卒業後、銀行に入行し営業を行っていました。結婚を機に退職し、子育てが落ち着いたタイミングで、北九州市のDXベンチャーに就職しました。DXベンチャーでは、スタートアップ支援特化のコワーキングスペースでコミュニティ・アクセラレーターとして働き、スタートアップ企業の伴走支援や相談相手として関わりながら、5年間勤めていました。スタートアップ企業の方々とコミュニケーションを取って支援する業務が好きでしたが、スタートアップの企業の方々と関わっていく中で、もっと自分ができる支援を続けたいという思いが強くなっていたところ、有限責任監査法人トーマツからお話を聞き、ビジョンやチームがとても魅力的だったので、アシスタントとして関わりたいと思い入社しました。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社してよかったこと、現在の所属組織で働くことの魅力を教えてください。

A.　育児と両立しやすい環境や雰囲気を整えていただけることと、成長している実感が持てるところです。入社時にフロントオフィスメンバーのアシスタントとバックオフィスメンバーのアシスタントのどちらを希望するかを聞かれた際に、本音としては、人と接することが好きなので前者と答えたかったのですが、子育て中のため出張が難しく、後者の方がいいのかもしれませんと正直に話しました。しかし、周りのメンバーから、「自分が本当にやりたいことや得意・好きだと思うことを全力でやった方がいい。出張はできる人がフォローすればいいから大丈夫」と言っていただき、それならば、とフロントオフィスメンバーのアシスタントを務めることになりました。普段は福岡市のオフィスではなく、自宅や自宅近くの事務所で業務を行うことができるため、育児と両立することができ、とても助かっています。
また、このチームは同じビジョンに向かって成果を上げるために前進していて、働いていて本当に気持ちがよく、みんなで成長している実感があります。メンバーはそれぞれ専門性が高く、協力体制が素晴らしいことも魅力です。「自分が苦手なことを無理してする必要はない。苦手なことは得意な人にやってもらい、自分の得意なことをどんどん伸ばそう」という環境です。私はこれまで自分の得意なことが分からなかったのですが、ここで「プレスリリースを書くのがうまい」「司会が向いている」などと言ってもらい、自信を持ってできることが増えました。

Q.今後のキャリアプラン、ビジョンをお聞かせください。

A. まだ入社2年目なので、しっかりと業務を行っていきながら、いろいろなことを貪欲に吸収していきたいと思っています。私の役割はフロントオフィスメンバーを支えることで、必要なことを自ら考え周到に準備するように意識しています。
フロントオフィスメンバーは専門性が高く、その分野で困っている企業をサポートすると「〇〇さんのおかげでとても成果が上がりました」と感謝されるのを何度も目の当たりにしてきました。チーム内ではいつも「ありがとう」という言葉が飛び交っていますが、アシスタントがクライアントの方から直接感謝される機会はなかなかありません。アシスタントとしてフロントオフィストメンバーをフォローしながらも、自分なりに勉強して、クライアントにとっても私が必要だと思ってもらえるような存在を目指します。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

九州・アジアイノベーションエコシステムの構築と発展に向けて

■パートナー
有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　西日本事業部　西日本アドバイザリー　福岡事務所
2022年7月入社

■シニアマネジャー
有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　西日本事業部　西日本アドバイザリー　福岡事務所
2020年2月入社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

西日本アドバイザリーが目指す世界とは何か

西日本アドバイザリーのチームをリードするパートナーとシニアマネジャーが、チームの成り立ちと、チームの目指す方向性について語り合いました。

Q.西日本アドバイザリーの部署がどうやって生まれたのか教えてください。

パートナー（以下「P」）：もともとは有限責任監査法人トーマツからスピンオフして、1997年にトーマツ・ベンチャーサポート株式会社(現デロイトトーマツ ベンチャーサポート株式会社)が福岡で立ち上がりました。日本国内でも先駆け的な存在で、デロイト トーマツ グループのベンチャー支援の動きは福岡から広まったのです。
私は佐賀出身で、公認会計士として当法人に入りました。福岡事務所でキャリアを積む中でベンチャーやスタートアップの人と話していると、自分たちにできることがたくさんあると気づきました。そこで監査業務の傍ら、全国のスタートアップのイベントを回りつつ、九州のスタートアップを支援することで大変喜んでいただき、より一層やりがいを感じるようになりました。現在は、西日本アドバイザリーという部署を作り、20名超のメンバーで成長志向のある企業を全力でサポートしています。

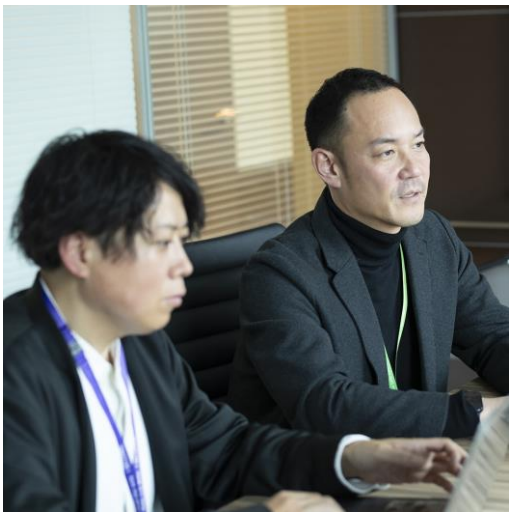
シニアマネジャー（以下「SM」）：大分で中小企業の専務として苦労しながら働く父の姿を見て育ち、中小企業を支援する仕事を志すようになりました。公認会計士と中小企業診断士の資格を取って有限責任監査法人トーマツに入社し、数年後に自ら希望して福岡事務所へ。監査ではなく、地方のベンチャーや中小企業のサポートをしたいと思い、前のめりで業務に邁進してきました。

Q.チームのミッションを教えてください。

P：私たちは、「世界規準の地域価値を共創する」（チームミッション）ために、まずは「地域の挑戦者が多様な選択肢と機会に出会える世界を実現する」（チームビジョン）ことを目指しています。例えば、挑戦者の代表格であるベンチャー企業は、地域において経済の新陳代謝を促し、新たな産業や雇用といった価値を生み出す役割を果たします。他にも中小企業や自治体の方、学生の皆様など「自分たちの住む地域がこうなったらいいな」「こんなことができないかな」と地域に想いを持って行動する挑戦者こそが、地域の未来と価値を創っていくと考えています。
私達はそのような挑戦者と共に、世界に胸を張って自慢できる地域の価値を一緒に創りたいと考えています。
はじめは会計士ばかりのチームでしたが、7年ほど前から多様な専門性を持つメンバーを採用しています。

現在もデザイナー、エンジニア、デジタルマーケティングなど、地域企業の成長に必要なスキルセットを持つメンバーを募集しています。もちろん個々のスキルも重要ですが、チームビルディングにあたって最も大事にしていることは、地域を本気で盛り上げたいという熱い思いを持っているかどうか、正しいことをみんなで楽しみながらチャレンジができる文化や環境が作れているかだと考えております。

SM：ベンチャー企業に限らず、未来に向けて現状を打破したい、地域を良くしていきたいなどの思いを強く持つ挑戦者の方々をチーム伴走型で応援しています。企業という点の応援だけではなく、地域や産業に広く関わる官公庁や各種協会・団体の方々と連携した面での取り組みも多くあります。私たちのチームは、上からアドバイスをするのではなく、あくまでも共に悩み考え行動し、一緒に汗をかくスタンスが特徴です。母体のグループにはあらゆる分野のプロフェッショナルがそろっているのに加えて、組織の枠を超えて九州を良くしていこうという数多くの同志とつながっているため、最高のチームで企業や地域が抱える課題に対して深く入り込むことができるのではないかと思っています。



Q.チームの活動エリアは主に九州の地域が対象になるという理解でよろしいでしょうか。

SM：長期的には全国地域と世界なのですが、中期的には九州及び中四国地域、そしてアジアを対象としています。もちろん限定しているわけではなく、実際には現在もアフリカのプロジェクトなども動いているのですが、まずは地域から東京を目指すのではなく、アジアを目指せる流れを作れたらと考えています。
九州でいえば、昔からアジアと経済的な連携をしようというビジョンを多くの人が掲げてきました。今こそそれを実現するチャンスで、当法人グループはアジア各国に事務所があり、多くのネットワークとクライアントを抱えているので、私達のチームは旗振り役として多くの貢献ができると考えています。これらを、志を同じくする地域の挑戦者と一丸となってやり切りたいです。
近年は地域に拠点を移したり、移住する人が増えていますが、その理由が「地域でビジネスをする方が圧倒的に成長できるから」「この地域に来たらアジア単位のビジネスができるから」と言われるようになりたいです。

P：地域のスタートアップと海外の投資家のマッチングをはじめ、アジアとつながって動くプロジェクトが確実に増えてきています。2033年までには、アジアと地域の経済的密度を高め、創造と変革を望む地域の挑戦者が、アジアレベルで活動するための多くの選択肢と、事業機会を創る。地域企業が進出可能なマーケットエリアと狙える市場規模の拡大を図り、アジアから選ばれるための世界規準の価値を地域に創出することを目指しています。地域とアジアが一体の経済圏になり、シームレスにつながる世界観は面白く、本気で目標に向かっています。

Q.どのようなチームを目指していますか？

P：私が最も大事にしているのは、個人のやりたい思いと組織のやりたい思いが一致するかどうかという点です。私たちのチームは地域軸が最上段にあり、その上で自分がやりたいことをこの組織を使って実現してほしいと思っています。個人のWillを成し遂げるために、このチームでやったほうがより早く・より大きくできることが理想です。一人ひとりがWillに向かって能力と個性を発揮することでチームの力が最大化して、より良いチームになれば地域も活性化するという好循環を生み出していきたいです。

Q.最後に、今後の構想を聞かせてください。

SM：私たちのチームは大規模な組織の中でスタートアップ的な動きができる唯一の部隊です。会社の利益優先で考えると、どこの会社も誰もやらないプロジェクトでも、私たちはそれが地域にとって必要なことであれば、何としてでもやり遂げる覚悟を持っています。ありがたいことにそうした考えに共感頂き、プロジェクトも年々増えてきているため、2024年4月から新しい体制で新事業を複数展開しています。

P：これからもっともっと九州の経済を活性化し、アジアとつながり、ひいては世界へと打って出るためには、九州という地域に熱い思いを持つ人たちの力が必要です。ぜひ私たちのチームの仲間になり、一緒にチャレンジしませんか。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

ワークライフバランスも、スキルアップも。家庭と仕事の単なる両立ではなく、両方充実させることができました！

有限責任監査法人トーマツ
Audit Innovation & Delivery Center
オペレーター
事務職（バックオフィス）出身
専門性をつけスキルアップ／ワークライフバランス／未経験業界へチャレンジ

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.仕事内容について教えてください。

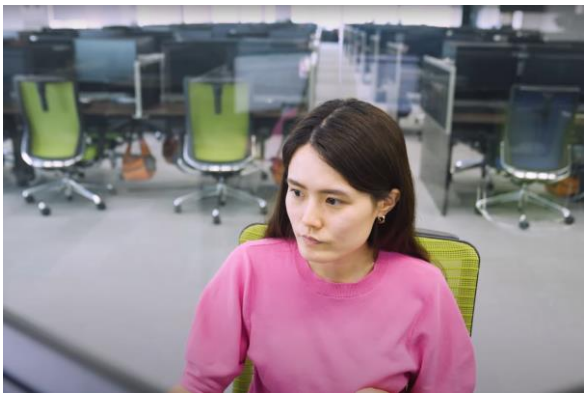
A. 所属しているAudit Innovation & Delivery Center（以下、AIDC）では、各監査現場で行っている監査手続の中の、基礎的な入力、チェック業務など、公認会計士以外でも可能な業務を標準化しており、主に指示書に従って成果物を作成する事務作業を担当しています。
20名以上で構成されるチームに所属して、チーム内で成果物の確認作業を行ったり連携をとりながら仕事を進めています。

Q.AIDCを選んだ理由を教えてください。

A. 前職は保険会社で事務職をしておりましたが、もう少しワークライフバランスを整えたいと思ったことが転職を決めたきっかけでした。単調な事務だけではなく、より自分を成長させられるようなステップアップした事務職にチャレンジしてみたいと思い転職を決心しました。
前職では突発的な残業も多く、家庭との両立が難しい状況でした。現在は、繁忙期でも事前に残業の計画を立てられるため、予測可能なスケジュールで働くことができています。

Q.転職して仕事とプライベートのバランスは変わりましたか？

A. 在宅勤務が増えたことで、仕事と家事が両立しやすくなり心身ともに負担が軽減しました。また時間の有効活用ができるようになったこともうれしい変化の一つです。家族から以前より笑顔が増えたと言われました。



Q.未経験業界へのチャレンジについて

A.会計監査未経験での入社だったため、業務についていけるか不安に思っていました。入社してから1カ月間、終日でカリキュラムが組まれた研修を受講し、当初の不安や心配事は解消されました。会計士や先輩から講義を受け、単元ごとにテストがあるため、しっかり理解しないとついていけない難しい面はありましたが、ただ受講するだけではなく、積極的に取り組むことで業務の基礎が身に付きました。中途入社でもこのように手厚い研修を受けられることに驚いたことを覚えています。
未経験の仕事なので、慣れない単語や専門的な知識に難しさを感じることもありますが、自分で調べるためのツールも用意されており、困った時にはチーム内のメンバーや会計士に聞ける体制が整っているため、問題を解決できています。

Q.仕事のやりがいについて

A.　自分で作成した成果物が監査チームに納品された時は達成感を感じます。単純なものだけでなく、難易度の高いリクエストもありますが、無事成果物として形が出来上がり、納品されることに自身の成果や達成感を感じます。前職ではお客様から感謝されることはありましたが、あくまで事務フローに則って対応している業務でした。今の仕事は自分自身で考えて作業を進めるので、達成感はひときわ大きいです。

Q.今後のキャリアアップについて

A. 前職ではオペレーターとして続けるか、マネジメントのキャリアに進むかの2択でしたが、現職ではスーパーバイザーというチームリーダーポジションと、Quality＆Development Staffという高い会計知識を活かしてより難易度の高い監査事務を任せられるポジションがあります。身近にいる方のステップアップの方向性がよく見え、「こういう道もあるのだな」と自分で考える機会があります。まずは業務のクオリティーを上げ、オペレーターとしての階級を上げていけるように努力していきたいと思っています。

インタビュー動画はこちら

トーマツ AIDCサポート事務職 職員の声 vol.4

一覧へ戻る　採用ページへ戻る